

7

山口 勝利(北海道美唄市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
きたげんき	2.1ha	818kg/10a	328kg/10a(490kg/10a) [*]

※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族2人(本人、配偶者)で経営する専業農家。
- 主食用米・飼料用米の水稻専作。

【作付品目】

- | | |
|-------------------------------|--------|
| ○主食用米 | 18.6ha |
| ななつぼし、おぼろづき、ゆめぴりか、ほしまる、さんさんまる | |
| ○飼料用米 | 2.1ha |
| きたげんき | |



【取組のきっかけ】

- 地元JAからの勧めもあり、平成26年産から多収品種「たちじょうぶ」で飼料用米の取組を始める。

【取組概要】

- 耐倒伏性・耐冷性を考慮し、平成30年産から作付品種を「きたげんき」に変更。
- 土壌診断結果に基づき施肥設計を実施。基肥は主食用米よりN2kg/10a多いN4.2kg/10a、側条施肥には高窒素肥料N5kg/10aを使用し、施肥効率を向上。また、秋耕起と融雪剤を兼ねての雪上散布の都合2回、粒状ケイカル(100kg/10aずつ)を施用している。
- 除草は、植代後除草と初中期一発剤を使用。体系処理をしないことで除草回数を減らし、省力化しつつ、適正な雑草管理を実現。
- 病害虫防除は、本田防除を通常4回のところ、無人ヘリコプターを用い、出穂後に播種同時箱施用剤を1回のみ散布。
- 粿を半乾状態でJAびばい所有の「らいす工房びばい」へ搬入し乾燥・調製の後、出荷しており、安価で大型の施設を利用し労力・経費を抑えている。
- 地域の取組として、稻わらの全量を粗飼料として畜産農家に供給し、耕畜連携に取り組んでいる。

8

鈴木 盛輝(北海道美唄市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
きたげんき	4.0ha	787kg/10a	297kg/10a(490kg/10a) [*]

※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族2人(本人、配偶者)で経営する専業農家。
- 米を中心とした小麦・大豆・そばの複合経営。

【作付品目】

- | | |
|--------------------|--------|
| ○主食用米:ななつぼし、ふっくりんこ | 10.1ha |
| ゆめぴりか | |
| ○飼料用米:きたげんき | 4.0ha |
| ○小麦:ゆめちから | 5.4ha |
| ○大豆:ユキホマレ | 4.7ha |
| ○そば:キタワセソバ | 0.3ha |



【取組のきっかけ】

- 基盤整備事業により区画も大きくなり、復元田1年目で主食用米を栽培するには食味に不安があったため、平成30年産で初めて飼料用米に取り組む。

【取組概要】

- 飼料用米の育苗を稚苗で挑戦し、育苗箱数を中苗の36枚から24枚に減らし省力化に努めた。
- 泥炭土壤のため、基肥は施用せず、即効性の化成肥料N4.2kg/10aを側条施肥、7月中下旬に尿素2kg/10aを流込施肥。出穂前に倒伏軽減のため植物成長調整剤を施用。
- 除草は通常、体系処理にて初期剤と中期剤2回を使用しているが、田植同時処理の1回で雑草を抑制し、省力化を実現。
- 病害虫防除は、通常混合剤を3回使用しているところ、出穂前にいもち病を予防する单剤、出穂後に殺虫剤单剤を無人ヘリコプターにより施用し、省力化。
- 粿を半乾状態でJAびばい所有施設へ搬入し乾燥・調製の後、出荷。安価で大型の施設を利用し労力・経費を抑えている。
- 地域の取組として、稻わらの全量を粗飼料として畜産農家に供給し、耕畜連携に取り組んでいる。